

事務事業評価表(既存事業)

コード 7-3-4	事務事業名 学童クラブ運営事業	所管部課 児童青少年部児童課
--------------	--------------------	-------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 学童クラブ事業運営することにより、学齢児(1~4年)の保護者の就労支援及び放課後児童の健全育成を図ることを目的とする。	総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)子育て支援の促進(創2-2) (主要施策)学童クラブ施設の計画的な整備
	実施内容、実施方法 市内在住者を対象にして、総定員1,145名、日曜・祝祭日・年末年始を除き運営を実施	根拠法令等
	事業開始時期 平成16年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> その他(嘱託職員を配置)

評価指標の設定	活動指標名 児童の受入数	活動指標の考え方(定義) 待機児の解消を目的に受入の努力をする。
	成果指標名 当初期限内申請児の受入率	成果指標の考え方(定義) 当初期限内申請児童の待機児をなくすため、全員受入を目標

		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
事務事業データ	事業費(A)		0	0	322,277	352,446	
	国庫支出金	千円					
	都支出金				77,800	77,817	
	地方債						
	その他				52,344	59,477	
	一般財源				192,133	215,152	
	所要人員(B)	人			2.00	2.00	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	0	16,656	16,656	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	0	0	338,933	369,102	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(児童の受け入れ人数)	千円	0	0	257.55		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	人			1,218	1,316
		実績値	人			1,316	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	%			100	100	
	実績値	%			100		
成果指標	目標値						
	実績値						

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	全国でもサービス水準は、トップクラス
	国・都・他市・民間等における類似事業	他市においても、学童クラブ事業を実施
	運営上の制約条件・外部要因等	都から補助を受けており、年間最低開設日数等の要件がある。

コード 7-3-4	事務事業名 学童クラブ運営事業	所管部課 児童青少年部児童課
--------------	--------------------	-------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input checked="" type="checkbox"/> 極めて良好 <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	全国でもサービス水準は、トップクラスである。 25学童クラブで1316人(5/1現在)受け入れている。
	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	年々、申請者が増えている。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	全国でもサービス水準は、トップクラスである。 総定員に対して受入人数は、超えており、申請が多かった学童クラブが、最終的に数名、待機児になっている。 嘱託職員による直営を維持し、比較的安定した運営が行われているが、NPOを含め地域による子育て支援の視点から委託化の検討が必要である。
	公平性 <input checked="" type="checkbox"/> より充実 <input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	待機児を解消するため、施設整備を行う
	総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	雑誌等でのサービスランキングも高く、ニーズも増えていることから今後も拡充して実施していく。

17年度における改善点	田無学童クラブの利用者の増加に伴い、仮分室を運営する。
-------------	-----------------------------

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	現在の取組内容を継続して実施する。
--------	---	-------------------

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
 - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
 - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
 - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
 - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
 - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。